オレゴン州の報告書、2026年のワイン用ブドウ収穫を回答者の94％が高評価

有望なヴィンテージが期待される一方、市場低迷で収量を減らしたり、ブドウの販売に苦戦したりする生産者もいる

2026年11月19日（木）



オレゴン・ワイン委員会が11月18日水曜日に公表したヴィンテージ報告書によると、2026年のオレゴン州のワイン用ブドウ収穫は、厳しい市場環境に直面する生産者が多いなか、品質について早くも高い評価を集めている。

報告書によると、ブドウの品質を評価した回答者の94％が、2026年の収穫に肯定的な評価を示した。生産者やワインメーカーは、生き生きとした酸、十分な成熟度、醸造初期の手応えを挙げ、州内の複数地域で高品質なワインが造られる可能性を示した。

こうした好ましいブドウ畑の状況は、オレゴン州および米国ワイン市場全体で需要が弱まり、在庫

が膨らむなかで訪れている。報告書によると、販売見込みに合わせて意図的に収量を減らした生産者がいる一方、ブドウの買い手を見つけるのに苦労した生産者もいた。こうした状況から、業界はブドウ畑での栽培判断だけでなく、市場全体で積み上がった需給の不均衡の是正にも取り組んでいることがうかがえる。

飲料業界にとって、オレゴン州のデータは、消費者需要が鈍化し在庫水準が高止まりするなか、ワイン生産者が生産量をどう調整しているかをより明確に示している。こうした状況が続けば、特にワインの流通や小売に関わる事業者にとって、ブドウの契約、生産量、価格設定の判断に一度の収穫期を超えて影響する可能性がある。

オレゴン・ワイン委員会は、州内の生産者やワインメーカーを対象とした92件のアンケート回答と16件の聞き取りをもとに調査結果をまとめた。報告書では、2026年シーズンの栽培条件、収穫結果、ワインの品質に関する初期の見解を記録している。

報告書によると、生育期は早く始まり、オレゴン州のワイン産地ごとに異なる展開を見せた。小規模な収穫となった地域が多かったものの、回答者はシーズン後半に条件が改善し、収穫時期を決める際の柔軟性が高まったと述べた。その結果、ブドウの品質が支えられ、一部の生産者は特に高い評価を示した。

オレゴン・ワイン委員会の暫定事務局長兼最高財務責任者、サリー・クロフォード氏は声明で、業界は調整局面にあるものの、2026年のヴィンテージは生産者に楽観する理由をもたらしていると述べた。また、収穫されたブドウの品質には期待が持てる一方、多くの生産者にとって今シーズンは厳しいものだったとも語った。

報告書には、南オレゴンのPacific Crest Vineyard Servicesの最高経営責任者兼創業者、ジェイソン・コール氏のコメントも掲載された。コール氏は委員会の聞き取りに対し、今シーズンは品質面で経験したなかでも最高のシーズンの一つだったと述べ、ブドウの品質はこれ以上望めないほどだったと語った。

報告書は、2026年のヴィンテージが商業面でどのような成果を上げるかについては踏み込んでおらず、醸造初期の評価が最終的な市場での結果を保証するものでもない。しかし、ブドウの品質が高い一方で経済的な圧力が存在し得ることを示している。とりわけ、生産者が自らの判断で生産量を減らしながらも、ブドウの販売に苦戦する可能性があるワイン市場では、その両立が顕著だ。

オレゴン・ワイン委員会は、オレゴン州のワインおよびワイン用ブドウ業界のマーケティング、調査、教育活動を統括する半独立の州機関だ。2026年のヴィンテージ報告書全文は、委員会の業界向けウェブサイトで公開されている。